

1. 事業の概要

窒素、りん等の栄養塩は海域の動植物、プランクトン等にとって必要不可欠なものであるが、必要量を上回る流入や海域をめぐる社会経済情勢、自然条件の変化等による生物相の変化等によって海中の栄養塩のバランスが損なわれ、赤潮や貧酸素水塊の発生、海苔の色落ち等の水産被害の発生が見られる海域が存在している。

海域に必要な栄養塩類の濃度(量)や流入域及び海域において実施すべき方策は、海域の地理的・地形的条件、海域の利用状況、当該海域の流入域の経済社会活動の状況等によって大きく異なっており、それぞれの海域に応じた海域・陸域一体となった栄養塩の円滑な循環を達成するための効率的かつ効果的な栄養塩類の管理方策を明らかとすることで、生物多様性に富んだ豊かで健全な海域の構築に向けた行政、地域住民、研究者、産業界等による総合的な取組を推進する必要がある。

そのため、栄養塩類のバランスを回復あるいは向上させるために地域関係者が共同で取り組む海域及び周辺地域をモデル地域として選定し、流入域における栄養塩負荷発生状況、水質・底質の動向、漁獲量の把握、陸域・海域バイオマスの増殖・回収機能強化に関する調査、物質収支モデルを用いた要因分析及び循環量の評価、新たな技術開発動向も踏まえた実施方策の抽出等を行い、具体的な行動計画を当該海域のヘルシープラン(仮称)として策定する。さらに、モデル地域における検討結果を踏まえて、我が国の閉鎖性海域において、海域の実情に応じた栄養塩管理方策を確立するものである。

2. 事業計画

調 査 項 目	H22	H23	H24
地域における栄養塩負荷発生状況調査 水質・底質や漁獲量の動向調査	→		
陸域、海域バイオマスの増殖・回収機能調査	→		
物質収支モデルの構築 要因分析、循環量の評価	→		→
モデル地域選定、栄養塩管理のあり方検討 ヘルシープランの策定			→

3. 施策の効果

栄養塩バランスの劣化による環境保全上の障害を解消し、豊かで健全な海域環境が構築される。

モデル地域における実践結果に基づいて、同様の問題を抱える閉鎖性海域において、総合的かつ効率的・効果的な海域環境保全対策が実施される。

海域の物質循環健全化計画策定事業(平成22～24年度)

～ 海域ヘルシープラン策定モデル事業～

現況： 栄養塩類バランスの劣化による赤潮や海苔の色落ちなどの障害



モデル地域における対策検討

モデル地域の物質循環量把握

- ・ 栄養塩類の発生負荷量調査
- ・ 地域吸収量、蓄積、流出状況調査
- ・ 海藻、藻類等吸収源の増殖と回収試験
- ・ バイオマス利用促進について検討

物質収支モデルの構築

- ・ 地域の栄養塩類循環状況を再現
- ・ 栄養塩類循環に及ぼす要因の抽出

影響評価手法の開発

- ・ 円滑な栄養塩類循環のための診断、評価手法の検討
- ・ 効果的な対策案の検討

栄養塩類管理方策検討

- ・ 海域の類型化
- ・ 推進すべき活動、施設整備、調査研究、技術開発等の施策整理

栄養塩類の循環バランスを回復あるいは向上させるための具体的な行動計画の確立

ヘルシープラン

生物生産力と多様性の高い海域の構築

海域・地下水等の水質改善、水質汚濁の未然防止

